

震度
7×2
からの
復興

平成28年熊本地震からの
復旧・復興に向けた取組み



熊本県益城町

1.

益城町の概要

位置

熊本県のほぼ中央から
やや北寄り、
熊本市に隣接

POINT **“交通利便性”**
にすぐれた町



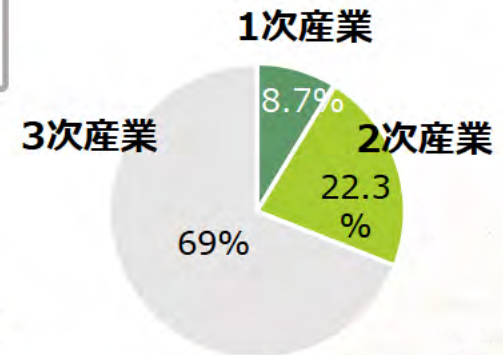
空港やIC（2か所）
があり、
“空と陸の玄関”
を有する

人口

POINT 震災前までは
“人口増加傾向”

人口 34,499人
世帯数 13,455世帯
(2016年3月時点)

産業構成



特色

- 町全域が熊本都市圏の都市計画区域
- 元々は農業を基幹産業として発展

POINT **“田園と都市が調和”**
する町

主な特産品

スイカ
メロン
さつまいも
太秋柿
etc...

2.

熊本地震による被害状況

POINT

熊本地震の特徴
“2度の震度7”

前震

28時間後

本震

平成28年4月14日 (木)
 21時26分頃
 マグニチュード**6.5**

平成28年4月16日 (土)
 1時25分頃
 マグニチュード**7.3**

POINT

熊本地震の特徴
“度重なる余震”

震度7 震度6強 震度6弱

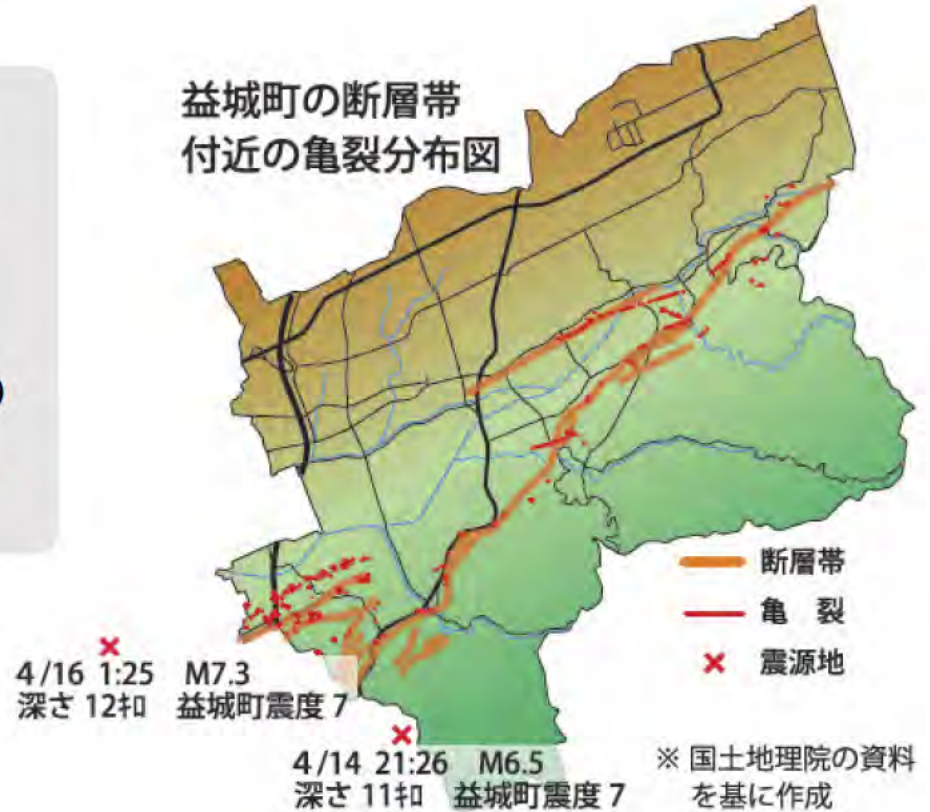
2回 **2回** **3回**

震度5強 震度5弱 震度4以上 震度1以上

5回 **13回** **145回** **4,484回**

(2018年4月30日現在)

益城町の断層帯
 付近の亀裂分布図



POINT

震度7×2を経験した
 のは益城だけ
“震源地はいずれも町外”

3.

熊本地震による被害状況

人的被害

直接死	20名
震災関連死	25名
重傷	135名

(2019年9月13日時点)

住家被害

全壊	3,026棟
大規模半壊・半壊	3,233棟
一部損壊	4,325棟
計	10,584棟

(2019年9月13日時点)

避難者数

10避難所	16,050人
-------	---------

(2016年4月17日朝に記録)

POINT

被災家屋は全体の約**98%**
“町全域に甚大な被害”



POINT

町民のほぼ半数が避難民に
“16,050人/34,499人”



4.

熊本地震による被害状況

町の様子

無残に崩れる 家屋・道路・施設

寺迫地区の家屋倒壊状況



木山地区の道路被災状況



下町地区の家屋倒壊状況



総合体育館の被災状況



5.

熊本地震からの教訓

震災
直後

1. 災害に強いまちづくりの大切さ
(復興まちづくり、創造的復興)

震災
直後

2. 災害への日頃の準備の大切さ

震災
直後

3. 人づくり・組織作りの大切さ
(防災意識の向上等)

そして
今!

+αで、3年半経過して思う事
(**!** 伝承の大切さ)

6.

熊本地震からの教訓

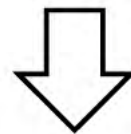
震災
直後

1. 災害に強いまちづくりの大切さ

(復興まちづくり、創造的復興)

大規模災害に備えるには、「インフラ整備」では限界がある。

しかし、益城町は、インフラ整備も脆弱だった。



POINT

これは、戦後の都市化の大きな流れの中で、災害に対して必要となる、街路、道路、公園（避難路、避難地）といった都市施設を整備することなく、市街地が拡大していったから。

7.

熊本地震からの教訓

益城町市街化区域の被災等状況

POINT

4m未満の狭あい道路と全壊した建築物が多いエリアが重なる  エリアが、ほぼ全域に存在。

→ 益城町の市街地は、震災に対し、ほぼ無防備な街並みだった。


被災状況図


木山交差点付近（町の中心地・都市拠点）

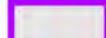
県道熊本高森線（町の中心軸）

秋津川

九州縦貫道

 幅員4m未満道路（狭あい道路）が多いエリア

 全壊した建築物が多いエリア

 2エリアが重なる箇所

凡例

- 全壊 住家
- 大規模半壊 住家
- 半壊 住家
- 市街化区域界

8.

熊本地震からの教訓

1. 災害に強いまちづくりの大切さ (復興まちづくり、創造的復興)

県道熊本高森線の4車線化

総延長3,512m、総幅員27mの道路の両側に、幅員5.5mの利用空間(自転車歩行者道)が出現

→ 防災空間と賑わいの中心軸に

2017年2月
都市計画決定

2017年3月
事業着手

2017年10月
用地交渉着手

2019年1月
モデル地区着手

現道約10m

拡幅後約27m

POINT

災害に強く、かつ、創造的復興に繋がる、ひと・みどり・賑わいが主役となる安全で快適なみちを整備

9.

熊本地震からの教訓

1. 災害に強いまちづくりの大切さ (復興まちづくり、創造的復興)

益城中央被災市街地復興土地区画整理事業
設計図 ①-1.1, 500

事業計画

施行者 : 熊本県
施行面積 : 約28.3ha
事業費 : 約140億円
施行期間 : 平成40年3月31日
(令和10年)
平均減歩率 : 約9.9%

木山地区土地区画整理事業

木山交差点

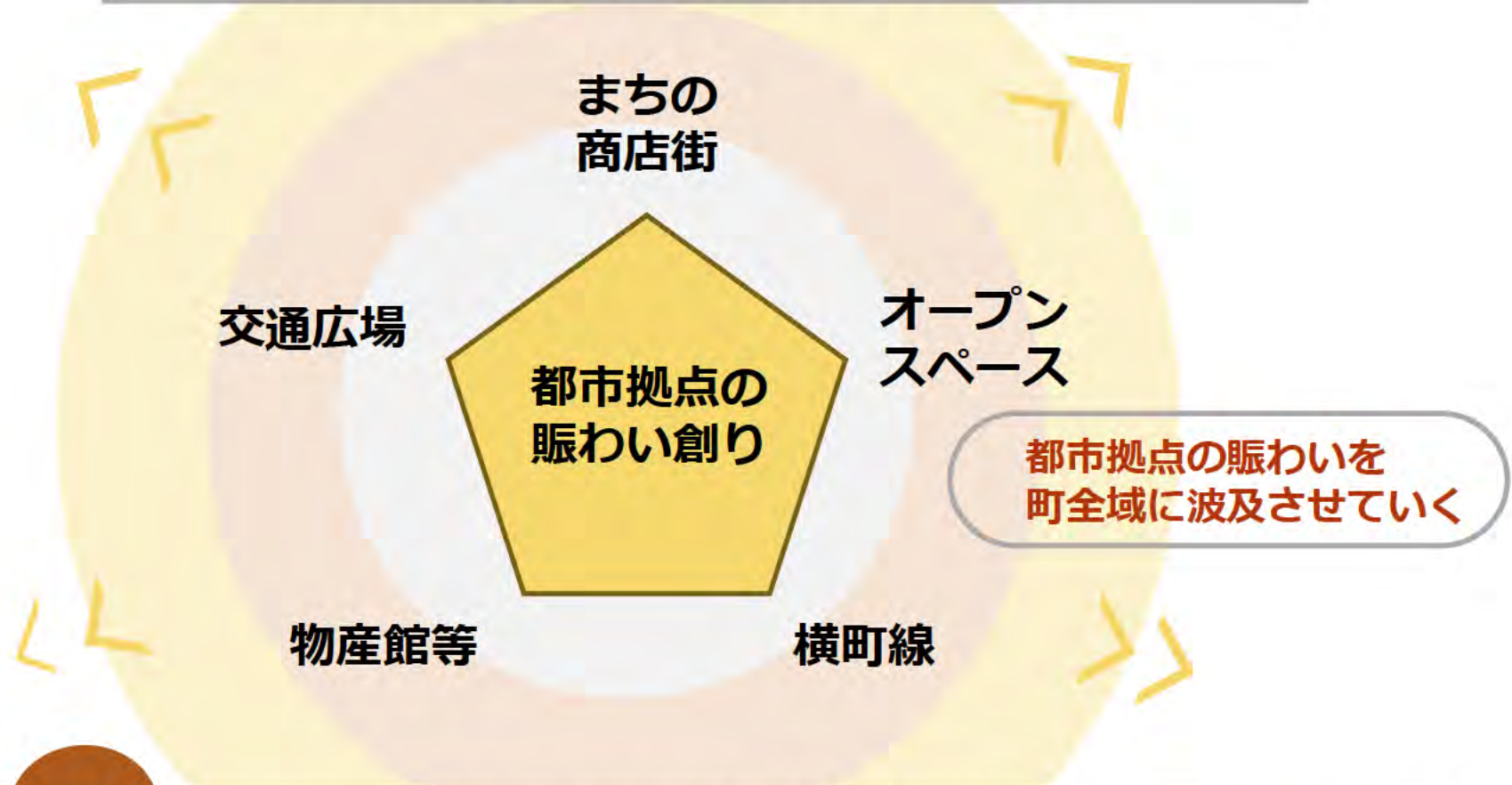
POINT

災害に強い良好な都市環境の整備
と、都市拠点（賑わい）の整備

10.

熊本地震からの教訓

1. 災害に強いまちづくりの大切さ (復興まちづくり、創造的復興)



POINT

災害に強いまちづくりを行う土地区画整理を「賑わい創り」の手法としても活用 → 災害に強い魅力ある都市拠点の形成。

11.

熊本地震からの教訓

震災直後

2. 災害への日頃の準備の大切さ

出来事

ほぼ半数住民が避難者に。避難所は大混乱。
大規模災害時における**多くの課題が浮き彫り**に。

避難所に人が殺到し、運営体制が整わず、受援も含め、場当たりの対応に。



平時から計画策定・訓練などの“備え”が必要。

このため、衛生・プライバシー面で劣悪な環境が発生。



2次避難や、パーティションの設置などの準備が大切。

さらに、次第に、円滑に自主運営される避難所とそうでない避難所の差が拡大。



日頃から共助の意識啓発や地区内での防災訓練等が重要。

POINT

いざ！という時に、的確に対応できる**日頃の準備が大切**

12.

熊本地震からの教訓

震災
直後

3. 人づくり・組織作りの大切さ (防災意識の向上等)

1

**まちづくり協議会
の発足 (町内24地区)**



住民と行政が一体となり、災害に強いまちづくりを推進していくことを目的に庁内各地区に立ち上げ

2

**徹底した訓練及び
研修の実施**



図上訓練、抜き打ち参集訓練、地域住民を巻き込んだ総合防災訓練などを実施。

3

**被災地への
災害派遣**



職員を被災地に派遣、様々な災害パターンを学び防災力強化に繋げる（同時に熊本地震のノウハウも提供）。

point

人づくり、組織作りは、災害に強いまちづくりにつながる

13.

熊本地震からの教訓

そして
今!

+αで、3年半経過して思う事
(! 伝承の大切さ)

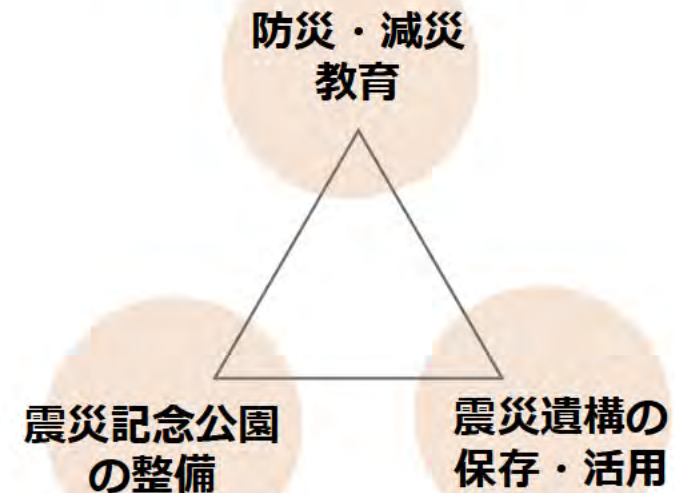
震災の記憶・記録を後世に伝承していくため、
「記憶の継承」検討・推進委員会を設置。

「記憶の継承」の4項目

- ① いのちの記憶
- ② 暮らしの記憶
- ③ 活動の記憶
- ④ 大地の記憶



やろうとしていること



point

震災の記憶・記録を風化させない「伝承」の仕組みづくり
が大切。 → 将来に渡り、一人ひとりが常に災害に対する
備えに取り組むために。

14.

熊本地震からの教訓

そして
今!

+αで、3年半経過して思う事
(! 伝承の大切さ)

やろうとしていることの1例

熊本地震で表出した3ヶ所の地表断層を国天然記念物として指定し、防災教育や環境教育に活用。

谷川地区

「V字型に露出した共役断層」
国内でも稀な標本



杉堂地区

「潮井神社に露出した断層」ご神木の榎の巨木が根元より倒壊



堂園地区

「畑地に露出した断層」横ずれ断層の規模を視覚的に伝える



15.

終わりに

「なんでもない毎日が宝もの」

熊本地震の3ヶ月前に公表した
移住定住PR動画の最後のワンフレーズです。

熊本地震を経験したことでこの言葉の重みを改めて痛感しつつ、もう一度「なんでもない毎日」を築き上げるため住民・町・議会をはじめ本町に関わる関係者が一丸となり、全力で復旧・復興業務に取り組んでいます。

これまでのご支援、大変ありがとうございます。

**皆様のご支援から勇気を頂き、今後も復興に
全力で取り組んで参ります。**